援助希求に乏しい子育て家庭の養育者との関係形成と対話的アプローチ

関連するSDGsの国際目標

人間看護学部　人間看護学科　　教授　　馬場　文
研究分野：公衆衛生看護学、児童虐待防止、
対話実践、質的研究

概要：妊娠・出産・子育てのあらゆる局面で、育児に関わる養育者の方々が安心して過ごしていける、いつも傍らに支援の手を感じることができる、そして子どもの虐待を防いでいくことができる社会を目指して、特に「自ら支援を求めない」「援助希求に乏しい」養育者と、相談援助担当者との関係形成に着眼した研究を行っています。

■援助希求に乏しい児童虐待家庭の養育者と市町村の相談援助担当者（保健師・家庭相談員）との関係形成

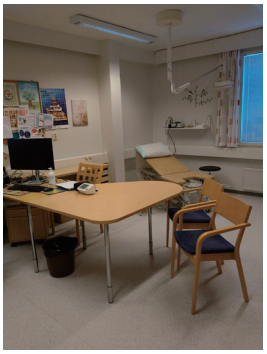
児童虐待家庭の養育者、特に、援助希求に乏しい（自ら支援を求めない）養育者と、市町村の母子保健ならびに児童家庭福祉の相談援助担当者との関係形成に着目した調査研究を実施した。援助希求に乏しいがゆえにアプローチが難しい養育者との関係形成について相談援助担当者が抱く認識をインタビュー調査により明らかにし、その関係形成をめぐる課題について考察した。インタビュー結果から捉えられた相談援助担当者と援助希求に乏しい養育者との関係形成をめぐる認識の多くは、児童虐待家庭における理解しがたい育児や生活の状況を前にして、「対等な立場」で受けとめる姿勢・態度になることの困難さであることが明らかになった。援助希求に乏しい養育者に対して、相談援助担当者が対等な立場に立つことができない状況が実際に生じている、生じ得るのだということを、児童虐待家庭の相談援助に関わる専門職やその所属組織では、まず自覚する必要があるということを本研究では明示した。

馬場文(2022)「自ら支援を求めない児童虐待事例の養育者との関係形成における困難の構造―市町村保健師へのインタビュー調査から」『日本看護科学会誌』42, 429-436.
馬場文(2025)「援助希求に乏しい児童虐待家庭の養育者との関係形成における家庭相談員の認識―関係形成をめぐる困難と肯定的兆し」『日本保健福祉学会誌』32(1), 1-12.

■援助希求に乏しい児童虐待家庭の養育者との関係形成における対話実践活用の可能性

援助を受ける側と援助を実施する側との力の差は必ず生じるものと理解し、援助者はそのことに敏感であることが求められる。援助の対象となる養育者に、ひとりの人として関心を向け理解しようとすることが、関係形成の入り口となることが上記のインタビュー調査からも明らかになった。このような実践のための方策として、北欧で取り組みが始まった対話実践・対話的アプローチを、母子保健や子育て支援において活用することを目指している。





フィンランド タンペレ市のネウボラを視察　（2025年3月）

＜共同研究＞
・科学研究費助成事業 基盤研究C（2024～2026年度）「子育て家族の支援ネットワークを育むオープンダイアローグの理論化と具現化」研究代表者：名古屋市立大学大学院 門間晶子　役割：研究分担者
・滋賀県立大学地域交流看護実践研究センター「共同研究」研究助成（2024～2026年度）「保健師の専門能力獲得および所属組織への波及効果の検討―滋賀県保健師コンサルテーション研修受講者への調査から―」
研究代表者：堀井とよみ　役割：研究分担者
・減量・代謝改善外科患者会における当事者の経験―減量・代謝改善外科患者会参加者へのインタビュー調査から―（2026年度～）研究代表者：馬場文　研究分担者：山本寛、中島謙太郎、村上純一、山中一紗、牧野耕次